

# Bookstart Newsletter



2017  
秋  
No.58

ブックスタート・ニュースレター



特集

## 事業を充実・継続させる体制づくりを考える

～東京都葛飾区の事例から～

ブックスタートを実施する自治体の多くは、事務局担当部署が単独で事業を行うのではなく、他の部署と連携し、協力しながら実施しています。

異なる部署や、多くの人の協力が必要なこの事業を、円滑に運営し、充実させていくためには、図書館員、保健師、子育て支援に携わる職員、ボランティアなどの関係者とうしが、良好な関係を築くことが大切です。

一方で、ブックスタート以外にも様々な事業や業務がある中、連携を図りたい他部署の理解が思うように得られず、協力関係を築くことが難しいという声もお聞きます。また、事業を継続していく上では、異動などにより担当者が代わっても、ブックスタートの理念や積み重ねたノウハウが引き継がれていくことも重要です。

今回取材したのは、人口40万人を超える東京都葛飾区。事業開始から12年、職員の異動やボランティアの交代などを経ながら、関係者とうしの信頼関係を築き、活動を根付かせてきました。その取り組みをご紹介します。

ケーススタディ  
東京都葛飾区

葛飾区の年間出生数は約3600人。ブックスタートは区内6会場での4か月児健診で実施しており、2016年度はのべ109回開催しました。そのため、運営には事務局を担う中央図書館の担当者のほか、各会場を担当する地域の図書館や保健センターの職員、ボランティアといった多くの人が関わっています。こうした中、関係者どうしの情報の交換や共有、連携体制づくりはどのように行っているのでしょうか。

◆図書館での情報共有

「児童サービス委員会」で検討

図書館では毎月1回、各館から代表者が集まり、「児童サービス委員会」を開催しています。この委員会では、ブックスタートやセカンドブック等（※）の各種事業をはじめ、講演会の企画やボランティア交流会を含む児童サービス全般について話し合わせ、そ

の検討事項を元に、館長・係長会で決定し、各館の事業が行われます。ブックスタートの配付絵本の選定や詳細なマニュアルの作成も、委員会で行います。こうした組織の体制や運営マニュアルが整っていることは、担当職員の異動があっても、事業が確実に引き継がれ、継続していくために役立っています。

※3歳児に絵本を手渡すセカンドブックのほか、小1、中1でも本を1冊プレゼントする事業を行っています。

◆ボランティアの体制づくり

各地域の図書館が、

ボランティアを募集・養成

ボランティアの募集は、年に一度、区全体での募集・説明会を開催するほか、随時各館で行っています。ボランティア希望者は、地域の図書館でマニュアルや映像等を使った事業の説明を受け、ブックスタートを見学した上で活動に加わります。また、実際に活動する中で、先輩ボランティアは、アドバイスなどを通して、新しいメンバーに経験を引き継いでいます。

ことで、ボランティアから「いろいろな背景があることを考えて対応したい」といった感想が出るなど、親子への理解を深める機会になっています。

ボランティアどうしの交流では、悩みや疑問に対して皆で意見を出し合うなど、それぞれの経験を共有するほか、図書館員や保健師から必要に応じてアドバイスを行い、様々な親子に対応するための知識を増やしています。

◆図書館と保健センターとの連携

毎年「協力依頼の文書」を提出

毎年度末、図書館長から保健センター所長宛てに、ブックスタート事業への協力を次年度も引き続き依頼する文書を提出しています。具体的には、事業の実施方法や役割分担のほか、交流会への保健師の派遣や対象者数のデータ提供の依頼などを記載。内容に変更が無くても、毎年同じやり取りを重ねることで、相互に連携しながら実施していくことを明確にしています。また、文書にしておくことで、どちらかの担当が代わった場合でも、引き継ぎ漏れの防止にもつながります。

健診会場での相互協力

ある会場では、以前は母子手帳に、健診とブックスタートそれぞれのスタンプが受付のスタンプを押していましたが、保健センター側からの提案で、保健師がまとめて押印することになりました。一方、図書館員は、受付でブックスタート・バックを手渡すだけでなく、健診の資料や手荷物を入れるためのかごを持って保護者の誘導をするなど、会場全体を見て、親子が居心地よく過ごせるよう配慮しています。

このように、現場では気づいたことを相談し、実践しながら、健診もブックスタートもより良い場となるよう、互いに協力しています。



ブックスタートは待合スペースで行います。赤ちゃんだけでなく、保護者の様子にも気を配ります。

VOICE



中央図書館  
吉村 悦子さん

まずは子どもを知ること

図書館の児童サービスを考える上で、まずは今の子どもへの理解を深めること、子どもを取りまく状況を知る事が重要だと考えています。そのため、講演会や交流会も絵本についてだけでなく、様々な分野の方の話を聞いてもらっています。

講演会の参加者も年々増え、多くの方が子どもたちの育ちというものに関心を寄せているということを感じています。そして、実際に子育てに役立ったり、いつか「ブックスタートボランティアに参加したい」と思ってもらえたらうれしいです。

「ブックスタート公開講演会」で子どもへの理解を深める

毎年、絵本の専門家や保育士、発達心理学・脳科学の研究者、小児科医などを講師に招き、講演会を開催しています。こうした幅広い分野の方に講師を依頼するのは、様々な観点から今の子どもを取りまく状況を知ってもらいたいと考えているためです。

テーマや講師の候補は、児童サービス委員だけではなく、児童担当職員全員が日頃から研修会や講演会に出向くなどして情報を持ち寄り、児童サービス委員会で協議します。

「ボランティア交流会」で経験を共有し、知識を深める

交流会では、毎年保健師から、区の母子保健事業や昨今の保護者の状況などを話してもらいます。対象者の中には、様々な状況の方（低体重の赤ちゃん、若年・高齢出産の母親、子どもとうまく関われないという方、日本語以外を母語とする方など）がいること、また、特別な事情がない方でも、予防接種の回数が増え、保護者の負担も大きくなっていくことなどから、親子に接する際に配慮してほしい点についても話があります。具体的な説明を聞く

VOICE

水元保健センター・保健師  
益田 美子さん

健診でブックスタートを実施すること

健診は対象者も多く、待ち合いのスペースもあまりゆとりがありません。それでも一組ずつ絵本を開き、親子が互いのぬくもりを感じながら、人の声で読んでもらう体験を届けられる健診でのブックスタートは、大事な機会だと思います。

また、図書館員やボランティアさんは、絵本の読みかきせをするほかにも、受付でこやかに親子を出迎え、待ち合いで番号を呼ばれても気づかない方を素早く見つけるなど、さりげなく動いてくれています。ブックスタートの実施だけでなく、健診全体の流れにも配慮してくれていることに感謝しています。

おわりに

複数の健診会場がある葛飾区では、まず図書館内の組織や運営の形を整え、さらに図書館員とボランティアが、子どもの健やかな育ちを考えたり、親子への理解や知識を深めたりしながら実施してきました。

また異なる部署どうしでは、組織として正式な文書を作成することで各課の役割を明らかにするとともに、各会場では人と人が臨機応変に動きながら協力しあう。こうした二つの側面の丁寧な積み重ねが、事業を行うための連携を確かなものとしていました。自治体によって、事務局や連携する

部署・人も様々ですが、地域での連携体制を確認しておくことは、会場での円滑な実施や、長く継続していくための基礎になるのではないのでしょうか。



スタッフの皆さん。優しい笑顔で親子を迎えています。

# Picture Books for Babies



## 2018～2020年度 ブックスタート赤ちゃん絵本が決定

2017年5月、2日間にわたり第9回絵本選考会議を開催。  
各地域のブックスタートで、2018年度からの3年間、手渡される絵本の候補となる  
「ブックスタート赤ちゃん絵本」30タイトルが決定しました。

### 地域の様々なニーズを踏まえ、 30タイトルの絵本を選出

各自治体で行われるブックスタート事業において、対象となる赤ちゃんの月齢、手渡す絵本の冊数や予算額は様々です。また、どのような観点で絵本を選択するかも、地域によって少しずつ異なります。そうした自治体の多様な要望にお応えするため、今回より、選出する絵本のタイトル数と提供年数に変更になりました。

提供タイトル数・20タイトル↓30タイトル  
提供年数・2年度↓3年度



<会議の様子>  
それぞれの経験を持ち寄り、絵本を読みあみながら議論が進められました。

### ブックスタートの普及を支える 「非営利のしくみ」

NPOブックスタートは、会議で選出された「ブックスタート赤ちゃん絵本」を、自治体に「非営利のしくみ」を通じて提供しています。

### 独立・中立的な「選考会議」

絵本の選考は、赤ちゃん絵本との関係について豊富な知識と経験を有する5名の委員（p7参照）が、日本国内において、おおよそ満2歳児以下を対象に出版流通している絵本から、選考基準に基づき、公平・中立的な立場で行いました。

### 選考基準

赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わし、気持ち

### 特別な価格と流通の適用

「ブックスタート赤ちゃん絵本」は、提供出版社に得失のない「特別支援価格」で、かつ通常の書籍流通と異なり、出版取次会社や書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供されます。そして、ブックスタート事業で親子に手渡す絵本として自治体に廉価で提供されます。ブックスタートのための、この一連の流れを「非営利のしくみ」と呼んでいます。

このしくみは、日本にブックスタートが紹介された2000年の子ども読書年の際に、出版界・出版社・出版取次会社・書店が、この活動を応援することを確認して行った「ブックスタート・パックスの絵本提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき、多くの出版関連各社の理解と協力を支えられ、運用されています。

### しくみの活用が事業の充実に

NPOブックスタートは、この「非営利のしくみ」によって、絵本などのブックスタート・パックスを自治体に提供し、その販売収益により、財政的にも自立した形で組織を運営しています。そして、各種資料の発行や研修会の開催など様々な取り組みを行い、各地のブックスタート事業を支援しています。つまり、各自治体が「非営利のしくみ」を活用し、事業を行うことは、全国各地のブックスタート事業の普及と充実につながっています。

### タイトル 50 音順

- 『あ・あ』 作・絵/三浦太郎 (童心社)
- 『あそび』 作/ヘレン・オクセンバリー (文化出版局)
- 『あっ!』 文/中川ひろたか 絵/柳原良平 (金の星社)
- 『いないいないばあ』 文/松谷みよ子 絵/瀬川康男 (童心社)
- 『おつきさまこんばんは』 作/林明子 (福音館書店)
- 『おひさま あはは』 作・絵/前川かずお (こぐま社)
- 『かお かお どんなかお』 作・絵/柳原良平 (こぐま社)
- 『がたん ごん がたん ごん』 作/安西水丸 (福音館書店)
- 『かにこちゃん』 作/岸田裕子 絵/堀内誠一 (くもん出版)
- 『くだもの』 作/平山和子 (福音館書店)
- 『くっついた』 作・絵/三浦太郎 (こぐま社)
- 『くらいくらい』 文/長谷川摂子 絵/柳生弦一郎 (福音館書店)
- 『しっぽがびん』 作/おくはらゆめ (風濤社)
- ※『じゃあじゃあ びりびり』 作・絵/まつのりこ (偕成社)
- ※『しろくまちゃんのほっとけーき』 作/森比左志・わだよしおみ・若山憲 (こぐま社)
- 『だっだあー』 作/ナムーラミチヨ (主婦の友社)
- 『だるまさんが』 作/かがくいひろし (プロンズ新社)
- 『どうぶつのおかあさん』 文/小森厚 絵/藪内正幸 (福音館書店)
- 『ととこととことと』 作/まつのりこ (童心社)
- 『ととけっこう よがあげた』 案/こばやしえみこ 絵/ましませつこ (こぐま社)
- 『のせてのせて』 文/松谷みよ子 絵/東光寺啓 (童心社)
- 『ぴょーん』 作・絵/まつおかたつひで (ポプラ社)
- 『ふたごのしろくま ねえ、おんぶのまき』 作/あべ弘士 (講談社)
- 『ぼんちんぼん』 作/柿木原政広 (福音館書店)
- 『ぼんぼんポコポコ』 作・絵/長谷川義史 (金の星社)
- 『ママ だいすき』 文/まど・みちお 絵/ましませつこ (こぐま社)
- 『まるてん いろてん』 作/中辻悦子 (福音館書店)
- 『もこもこもこ』 作/谷川俊太郎 絵/元永定正 (文研出版)
- 『よくきたね』 文/松野正子 絵/鎌田暢子 (福音館書店)
- 『りんご』 文/松野正子 絵/鎌田暢子 (童心社)

### 視覚に障がいのある方に対応するために

著作権者への確認、準備が整ったタイトルについて「てんやく絵本」への交換対応を行います。(製作協力: てんやく絵本ふれあい文庫)  
※印のタイトルは、市販の「てんじつき さわるえほん」を提供します。

### 絵本が赤ちゃんに届けられるまで



\* しくみの適用範囲は、ブックスタート事業で赤ちゃんに手渡される最初の絵本、かつ、NPOブックスタートから本事業を実施する自治体への提供時のみです。それ以外 (例: 図書館の蔵書、2度目に手渡す絵本など) に適用されることはありません。

ちを合わせながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本の内、次のいずれかにあてはまるものとする。

(1) 年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。

(2) 今後、赤ちゃんから支持を受けられる可能性が高い絵本。

※選考は、委員の独立した判断によって行われ、出版社やNPOブックスタートの意向が反映されることはありません。

# Picture Books for Babies

**遠藤利彦**  
乳幼児発達  
東京大学大学院 教授

子どもの心は人との豊かな相互作用の中で育ちます。そして絵本は、その相互作用を支え促すための魔法の道具です。一人ひとり、異なる個性をもった子どもが、絵本のどこにどんな好奇心を抱くのか、その視線の動きをじっくり見てみましょう。そして、その視線の先にあるものをトピックにして、心に自然に浮かんだことを、子どもに語りかけてみてください。きっと、子どもはあなたの声と目に関心を寄せざるはず。そして、無限に広がる心と心のやりとりで夢中になります。

**庄司みゆき**  
保育士  
東京都武蔵野市 まちの保育園吉祥寺 園長

保育士としての視点から、日頃子どもたちが楽しんでいる絵本を中心に、より子どもにとってわかりやすく、安心して繰り返し楽しめる内容のものを優先して選びました。また、子どもと大人と一緒にやりとりを楽しめる絵本も重視しました。他の委員の方々と熱い思いを交わすことで、自分自身の学びを深めるきっかけにもなりました。今後も、子どもたちの心が豊かに揺さぶられるような絵本、親子のコミュニケーションが深まるきっかけになるような絵本を発掘し続けたいと思います。

## 選考委員から



(写真奥) 鈴木さん、遠藤さん、庄司さん  
(手前) 山口さん、代田さん  
\*本文敬称略

**山口陽子**  
司書・保育士  
愛知県あま市  
「わらべうたの会」主宰

ブックスタートの場でわらべうたと絵本を介して赤ちゃんたちに出会うのは、とても心豊かなあたたかい時間です。ことばのリズムの楽しさは、この絵本の絵が持つ力は、月齢で考えるとどうかなど多くの絵本を1冊ずつ吟味し、真摯に選考した会議でした。赤ちゃんの心に寄り添って読むことができる絵本、どの子も持っているすてきな力を読んだ時に感じられる絵本であることを信じています。多才な力をお持ちの委員さんの中に初参加し、多くの学びをいただきました。これを地域の現場に返していけたらと思っています。そして、選ばれた絵本が聞き手の親子と読み手に幸せの時間をもたらしますように。

**鈴木潤**  
子どもの本専門店  
「メリーゴーランド」京都店 店長

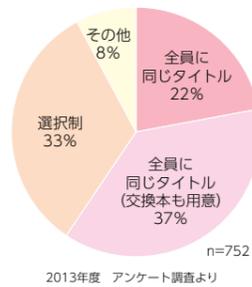
「初めて絵本に出会うかもしれない赤ちゃんとお母さんお父さんに、素敵な絵本との出会いがありますように」会議の間、ずっとこのことだけが頭にありました。私はその想いをたった1冊の絵本に託すことしかできないのですから、本を選ぶのには自然と力が入ります。知らない本と出会ったり、知っているつもり絵本の新たな魅力に気づいたり、学びの多い会議で素晴らしい体験をさせていただきました。

**代田知子**  
司書  
埼玉県三芳町立図書館 館長

赤ちゃんに読んであげたい絵本群から、ブックスタートで赤ちゃんの反応が引き出しやすい絵本を選ぶように努めました。各地の実施状況から、主な対象は4か月から1歳6か月の赤ちゃん。月齢とともに変化する絵本の楽しみ方をそれぞれの経験から確認し合い、1冊ずつ審議しました。留意点は、赤ちゃんが楽しむことができることば(音)・絵か、心地よい色か、把握しやすい構図・引き付ける展開か、読み合う楽しさを実感しやすいかなど。これらの絵本が赤ちゃんを幸せにしてくれますように。

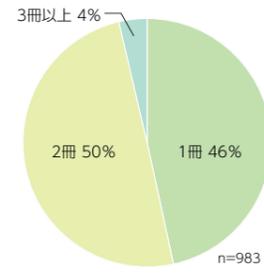
(参考)

手渡す絵本のタイトル



2013年度 アンケート調査より

手渡す絵本の冊数



2016年度 実施状況確認シートをもとに集計

## POINT

赤ちゃんは、成長に応じて少しずつ絵本の楽しみ方の幅を広げていきます

今回の会議では、赤ちゃんが月齢や発達段階ごとに、絵本のどのような要素を好むのか、一冊の絵本においても、どのように楽しみ方の幅を広げていくのか、そして、親子の間で絵本がどのような役割を果たしていくのかについても話し合われました。その内容の一部を紹介します。

※赤ちゃんの発達には個人差があり、絵本の楽しみ方も様々です。あくまで目安としてご参照ください。

4か月頃になると…

人の顔やその表情の変化といった視覚的な刺激や、言葉のリズム、アクセント、イントネーションといった音声的な刺激にひかれます。こうした要素を含む絵本には、顔や表情を分かりやすく描いているものや、リズムカルな言葉が繰り返されるもの、場面の変化が分かりやすいものなどがあります。

6-7か月頃になると…

上記の要素に加え、「次にどのようになるだろう」と予測を立てた時に、その通りの結果になる、さらには、そうした中に意外な展開が盛り込まれているような絵本も段々と楽しめるようになります。

9-10か月頃になると…

赤ちゃんが読み手が、同じものに興味を向けて、やりとりができるようになっていきます。段々とストーリーのある絵本を楽しめるようになり、さらには、絵の細部にも注意を向けられるようになるなど、楽しみ方の幅が広がっていきます。

## どの絵本を手渡すか 決定は地域の皆さんで

どのような視点や配慮をもって手渡す絵本を選択するかは、自治体によって異なります。皆さんはどのようなことを大切に考えますか？ 選考の際には、ぜひ、絵本を手にとってみてみてください。そして、赤ちゃんや保護者の気持ちを考えながら読みあい、皆さんの思いがこもった絵本を選んでください。  
※30タイトルの絵本を貸し出します。お気軽にお問い合わせください。

## 各地における絵本選択の視点例

【定評のあるもの／新しいもの】

- ・ロングセラーや赤ちゃん絵本として定評がある。
- ・出版年が比較的新しく、家庭での保有率が低そうである。

【今楽しめるもの／長く楽しめるもの】

- ・対象月齢の赤ちゃんの反応が引き出しやすいことを重視。
- ・月齢の低い赤ちゃんでも楽しめるものと、少し大きくなって楽しめるものを組み合わせる。

【絵本の仕様】

- ・赤ちゃんが扱いやすい大きさ、形。
- ・複数冊手渡すため、一冊は厚紙仕様にする。

【内容】

- ・健診でコミュニケーションの大切さを伝えるので、それに通じるもの。
- ・絵本になじみのない保護者も親しみやすく、読みやすい。
- ・お父さんも恥ずかしがらずに読める。
- ・特定の家族像が想起されないもの。
- ・母子だけでなく、父子の絆も強められるようなもの。

## 乳幼児健診とブックスタート ～心理相談の現場から～

心理相談員 **田丸 尚美**



地域で暮らす概ね9割の親子と出会える乳幼児健診では、子育てを支援する機会として、保健師をはじめ多様な専門職が相談にあたっています。親にとっては、わが子の成長を確かめたい、日々の子育てで生じる疑問を聞いてみたいと思い、健康面や発達のことなど何かあったらどうしよう……という緊張感が交錯する、ジレンマを抱えた場でもあります。

1歳半児健診の心理相談で出会ったAさん。診察の様子をたずねても「別に」とそっけなく、不安というより不機嫌そう。耳の病気、人見知りなど日常の心配事を、むしろ多弁なくらい話され、立ち入られたくない緊張が感じとれました。子どもと遊びながら関心を向けて聞いているうちに「この子は赤ちゃんのころからゆっくりめで、歩き始めも遅かった……。祖母らに心配されるたびに、不安になる。父親は仕事が忙しいのをいいことに、私任せ」と語り始めました。家族との関係上、抑えていたわが子の発達上の不安を、怒りや不満とともに表わされたAさんは、その後遊びを通して子どもの成長を支える親子教室に通い始め、不安に向き合っていけました。

相談は、お話を聴くだけでなく、親子の関わり「ふれる」場です。座り込んだまま子どもが動き回るのを見ないようにしていたBさん。「落ち着きがないとかじゃなく、この子と“いる”ことにイラつく」とわが子との関わりにくさを訴えました。子どもが動く度に連れ戻し、落ち着いて座れないCさん。“我”のはっきりしてきた子どもの気持ちをどこまで受けとめたらいいか迷うことばかりと、自信の持てない育児について訴えました。

それぞれの関係に影響されて、関わりが展開します。子どもが積み木を崩したときに、相談員が「びっく

りしたねえ！」と面白がっているのを見て、積ませなくちゃ……と焦り顔だった親の肩の力が抜けたりします。場面を共有する中で、親子の関わりに関与していくことができます。

乳幼児健診のブックスタートの時間は、親子と場面を共有することができるという点で、健診の中でも独特だと感じます。絵本を「読み聞かせる」というより、絵本（ときには、わらべうたや手遊び）を「共有する」ことを大事にしているため、親子と関わり合う時間を自然に作り出しています。しかも、相談のように心配事をテーマにするのではなく「楽しみ」を共有できるので、赤ちゃんの笑顔に驚いたり、絵本の面白さに思わず顔がほころんだりされるお母さん達の姿によく出会います。慣れない子育てに慌ただしく追われるようで、見失っていた自分の優しさに、親自身が気づかれる例もありました。ボランティアの作り出してくれる穏やかな時間～「ゆっくり、ゆったり、にっこり」した関わりから、それぞれの親子の日常が垣間見えたり、健診スタッフには見せない顔を見せてもらったりしています。ホッと、力を得たように帰られる親子の姿に、ブックスタートは、保健師や相談員も支援の糸口をつかむことができる、かけがえのない場になっています。

### 田丸 尚美 (たまる なおみ)

広島都市学園大学教育学部教授。  
地域子育て支援拠点こどもケアセンター「いーぐる」センター長。  
25年間、鳥取市保健センターで心理相談に従事。現在は、大学で教員や保育士の養成に携わる。著書に、『乳幼児健診と心理相談』（大月書店）、共著に『僕たちだって遊びたい 障害児・気になる子の遊びを見つめ直す』（ささら書房）など。



## 研修会のお知らせ

### 『ブックスタート研修会 in 大分』

開催日：2017年10月11日（水）10:30～16:00（開場 10:00）

会場：ホルトホール大分 参加無料・事前申込制・定員 100名

詳細は当法人ウェブサイトをご覧ください。http://www.bookstart.or.jp